



ロボットトラクター4台の協調作業

道経連会報 No.262 CONTENTS

巻頭言	1
特集1 「宇宙版シリコンバレー」 を目指して	2
道経連カレンダー	16
特集2 ラグビーワールドカップ 2019	17
視点	22
第45回定時総会	27
常任理事会レポート	53
特別講演会	55
委員会等の動き	62
会員企業紹介	64
会員の異動	68
新会員企業紹介	70
グループ活動報告	76
人事・労務相談日	83
北海道の経済動向	84
事務局人事	86
Face to Face	86
わがまち紹介 (シリーズ32)	87



北海道経済連合会 会長

真弓 明彦

会長就任にあたって

ご紹介をいただきました真弓でございます。只今、会長就任をご承認いただきましたが、その責任の重さに身の引き締まる思いであります。若干のお時間を頂戴し、就任にあたり一言ご挨拶申し上げます。

最初に、本総会をもって退任されます高橋会長、堰八副会長ならびに石井副会長におかれましては、これまで、大変難しい局面を迎えている北海道経済の舵取りにご尽力されてこられました。特に、人口減少や経済の伸び悩みなど多くの課題があるなか、「食」や「観光」などの北海道の強みをどう活かしていくか、「ものづくり産業」の底上げを図り強い経済をどう作りあげていくかなど、日々知恵を絞り、精力的に取り組んでいただき、多くの分野に様々な成果を挙げてこられました。これまでのお力添えとご功績に、あらためて敬意を表し、深く感謝申し上げます。

私自身、大変微力ではありますが、こうした皆さまの取り組みを引き継ぐとともに、一層前に進め成果を上げるべく、この後の理事会で決定されます新体制の下で、役員ならびに会員の皆さま、そして事務局のスタッフと力を合わせながら、北海道経済の持続的発展に尽くして参りたいと考えております。何卒引き続きのご支援・ご協力をいただきますようよろしくお願いいたします。

さて、道経連は1974年に設立され、今年で45年目、私は10代目の会長となります。先日、道経連の

設立趣意書を改めて確認いたしました。長い時間を経ても、「北海道の地域経済・社会の発展のため」という設立目的は、現在においても、いささかも変わるものではありません。

一方、我々を取り巻く社会環境は大きく変化してきており、設立時との最大の違いは、人口減少社会の到来と言えるのではないのでしょうか。全国よりも10年早く人口減少に転じた北海道においては、いち早くその処方箋を示すことが求められますが、道経連として新たな事業やサービス・産業を創造し展開していくことが重要であるとの基本認識の下、様々な活動計画が策定され、実行に移されているところであります。他の地域よりも先んじてこれを実現することにより、日本のみならず、世界の中での北海道の価値は高まり、逆境下での持続的発展を可能にするものと考えております。

また、産業構造や社会基盤など、社会生活そのものが大きく変わる「変革の時代」を迎えております。新しい時代「令和」においては、「Society5.0」の実現、すなわち、技術革新により国際的な競争力を強化するとともに社会的な課題の解決を図っていくことが重要であります。そして、この取り組みが北海道の経済・社会のさらなる発展に寄与するものと考えておりますが、変革のスピード、そして人口減少のスピードは想像以上に速く、遅れを取ることがあってはならないと思っております。

これまで私は、常任理事という立場で活動して参りました。その中で、課題をしっかりと見据えた上で、多少大胆であっても、明るい将来に向けた道筋を示すこと、つまり構想力が重要であり、加えてこれに共感して頂けるような熱意を持って進めることが我々に求められているのではないか、ということを感じています。

例えば、北海道経済の持続的発展のための主要な取り組みの一つであります、食の輸出やインバウンドの拡大などによる「外需の積極的な取り込み」。世界の人口の大幅な増加は商機であります。多くの方々に北海道の良さを認識していただくにはどうすべきか、これらの市場にどのように食い込んでいくのか。

また、現在進められている道内7空港の一括民間委託、そしてIR(統合型リゾート)開発、北海道新幹線の札幌延伸などを有機的に連携させ、その

効果を最大限に引き出すとともに、これらを起爆剤に将来にわたる北海道の広域観光振興と地場産業の活性化を図る戦略をどう描くのか。

先ほどの事業報告にもありましたが、5月4日にインターステラテクノロジズ様が、大樹町でMOMO3号機の打上げに成功し、次のステップでは人工衛星の軌道投入を目指していくとの、ご計画をお持ちです。我々として、この先の事業計画を応援していくことはもとより、例えば、北海道を宇宙データ利活用の先進地、あるいは宇宙関連産業の集積地としていく戦略、方策をどう組み上げていくのか。

明るい将来への道筋を示す構想、これは地に足の着いたものでなくてはなりません。したがって、様々な分野・地域の方々との連携はもちろんのこと、価値観の異なる方々ともフェイス・トゥ・フェイスの意見交換を行いながら、「北海道の地域経済・社会の発展のため」という当会の設立目的を忘れずに、熱意を持って精力的に取り組みを進めたいと考えております。また、我々の構想や取り組みを道内企業や生産者、道民の皆さんにご理解いただき、ご支援を得られるよう情報発信の強化にも努めていきたいと考えております。

繰り返しになりますが、来るべき本格的な人口減少社会に向けては、ここ数年が正念場でありますので、何事にもスピード感を持って取り組み、具体的な成果を追求しなければなりません。そして、前向きに課題に取り組み、保守的になり過ぎることなく、道経連の役員・会員企業はもとより、道内外の経済団体や業界団体、国や自治体、大学などの教育・研究機関、さらには海外の経済団体などとも連携を密にし、議論を戦わせ、ゴールを共有しながら、取り組みを進めていくことが極めて重要だと考えております。

結びになりますが、本日から道経連会長として活動を開始いたします。あらためまして、これまでの会長・副会長をはじめとする幹部の皆さまのご尽力に深く感謝申し上げますとともに、副会長をはじめ会員各位におかれましては、高橋前会長と同様、温かいご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。就任にあたってのご挨拶とさせていただきます。

何卒よろしくお願ひ申し上げます。